



公益財団法人関西カウンセリングセンター 60周年記念事業 第一弾

関西カウンセリングセンターは2025年、設立より60年を迎えます。

1965年、大阪十三の地にある企業の一室で始まったスクールが、関西カウンセリングセンターの前身です。高度成長期にある日本において「こころ」の問題にいち早く気づきを持ち、社会人の勉強会から発展したスクールとしてスタートいたしました。

この度、60周年を記念する事業の第一弾として、『ふつうの相談』など多数のご著書を出版されている、白金高輪カウンセリングルーム主宰 東畑開人先生をお迎えして講演会を開催いたします。

多くの皆さまのご参加をお待ちしております。

記念講演 「素朴な心のケアと専門的な心理療法」

私たちは、苦悩する人とどう関わりたいのでしょうか。専門家の助けももちろん大事です。しかし、家庭や職場などの日常場面で私たちがそうした人たちとどのように関わるかが、そうした人たちの苦悩に大きな影響を持つことも事実です。身近な一般人による生活場面でのケアと、専門家による相談機関や医療機関でのケアとは、どのように共通し、どのように違っているのでしょうか？

関西カウンセリングセンターは、市民一般に広く開かれた心理カウンセリングの学びの場として創設され、来年で60年を迎えます。60年の節目を前に、こうしたテーマについて、気鋭の心理臨床家である東畑開人さんをお迎えして、お話を伺いたいと思います。

2024年11月 杉原 保史

日 時 2025年1月12日(日)15:00~18:00

登 壇 講 師：東畑 開人先生（白金高輪カウンセリングルーム主宰）

イ ン ト ロ：杉原 保史先生（京都大学学生総合支援機構学生相談部門長・教授）

司 会：宮田 智基先生（帝塚山学院大学大学院教授、関西カウンセリングセンター講師）

受 講 形 式 「会場受講」と「オンライン受講」のハイブリッド形式

会 場 オービックホール（大阪府大阪市中央区平野町4丁目2-3 オービック御堂筋ビル2F）

参 加 費 無 料

[詳細・申込はこちら](#)



東畑 開人先生

講師からのメッセージ

素人性と専門性。これはカウンセリングや心理療法を考えるうえでの古典的な問いであり、そして現在進行形の解きたい問いでもあります。それは心の支援や治療というものが、「つながり」という人間の根源的な営みをめぐって行われるものだからだと思います。このとき、素人性も専門性もつながりを可能にすることもあるし、つながりを損なうこともある。この微妙なバランスについて議論をすることで、「心理療法とは何か」を一緒に考えていけたらと思います。